

「 さまざまな国際問題 」

本単元で育成する資質・能力

自ら考え判断する力、コミュニケーション能力、情報収集力、
高い志

- 1 日 時 平成30年1月30日 6校時
2 場 所 第一社会科教室
3 学年・学級 第3学年2組(31名 男子14名 女子17名)

単元について

本単元は中学校学習指導要領社会科(平成20年)公民的分野内容「(4) 私たちと国際社会の諸課題」における「ア 世界平和と人類の福祉の増大」「イ よりよい社会を目指して」にあたる単元である。

平成29年3月に告示された新学習指導要領中学校社会科の目標(2)では「社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。」としており、さらに(3)で「よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う」と学びに向かう人間性をはぐくむことを求めている。さらに文部科学省による「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」で、「自然環境や資源の有限性を理解し、持続可能な社会づくりを実現していくことは、我が国や各地域が直面する課題であるとともに、地球規模の課題でもある。子どもたち一人一人が、地域の将来などを自らの課題として捉え、そうした課題の解決に向けて、自分たちができることを考え、多様な人々と協働し、実践できるよう、我が国は持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議のホスト国としても、先進的な役割を果たすことが求められる。」と述べられている。

本単元は社会科の目標で示されている「よりよい社会の実現」を「持続可能な社会づくり」の視点からとらえさせ、課題に対して自分たちに何ができるか議論したり、主体的に解決しようとする態度を養う重要な単元であると位置づけられる。

生徒の実態

昨年、3学年(2組、3組)に対して実施したアンケートでは、「社会の授業で学んだことが実生活と関わりがあると感じる」と答えた生徒が97%、「社会の授業で学んだことを今度の生活に生かしてみたい」と答えた生徒が93%だった。生徒たちは9月に地方自治の学習で熊野町をより住みやすい町にするための様々な提案をまとめ、町長へプレゼンテーションを行った。その時の経験がこの数字につながっているのではないかと考えられる。

一方で「授業で周りの人に自分の考えたことを説明している」という問いに対し、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と答えた生徒は10%おり、他の質問よりも否定的な回答の割合が最も高かった。また「自分の考えを説明するときに理由を入れて説明している」という問いに対し、「あてはまる」と答えた生徒45%に対し、「ややあてはまる」ととどまった生徒は47%と「あてはまる」と答えた生徒を上回り、自信をもってできているとはいいいきれない状態である。また「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と答えた生徒も8%いる。

以上のことから自分の思考・判断したことを相手に説明する力に課題がみられることがわかる。

単元の指導

単元を通して、持続可能な社会づくりのために自分に何ができるか考えさせ、それを相手に伝えたり、行動宣言を作成することで、今後の生活での実践意欲を高める。

そのために地方自治の授業で行った、持続可能な地域社会をつくるためにどのような政策を実施すればよいか考えた経験を思い出させる。世界が抱えている課題が熊野町に与える影響を予想させ、課題について考える必要性を感じさせたい。そして理科の授業と連携して、環境問題やエネルギーについての知識を深める。また統計資料を分析して環境問題やエネルギー問題、貧困や紛争が日本に与える影響をワークシートにまとめさせる。特に地球温暖化対策についてエネルギー問題と関連づけて、日本を含めた先進国や発展途上国がどのように取り組むべきか、双方の立場にたって、意見交流をさせ、持続可能な社会の形成には一方にのみ何かを強いるのではなく、相互に協力できる方法を見つけていく必要性に気づかせ、自分が日常生活でできそうな行動を考えてふせんに記入し、模造紙に貼り校内に掲示する。その際、なぜその行動にしたのか、どのような効果がもたらされるかを他者に説明する対話的な学びによって、自分の考えに追加・修正を加え、学びを深めさせていきたい。

このように、既習事項を活かし、生徒にとって生活に身近な題材を扱いながら、課題を見だし、解決するために協働しあう学習活動を通じて、地域や世界が持続可能な発展をしていけるために自分たちに何ができるかを考えさせていきたい。

単元の目標

- 地球環境・資源・エネルギー、貧困、紛争などの諸課題と自分たちの生活の関わりを見出し、持続可能な社会の実現のために自分に何ができるか考えようとしている。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

- 地球環境・資源・エネルギー、貧困、紛争などの諸課題が社会に与える影響を考え、その解決策をまとめることができる。

【社会的な思考・判断・表現】

- 地球環境・資源・エネルギー、貧困、紛争などの資料を読み取り、課題を明らかにできる。

【資料活用 of 技能】

- 地球環境・資源・エネルギー、貧困、紛争などの諸課題と国際的な取組、日本の果たしている役割について理解し、その知識を身につけている。

【社会的事象についての知識・理解】

単元の評価規準

ア 社会的な事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用 of 技能	エ 社会的事象についての知識・理解
① 地球環境・資源・エネルギー、貧困、紛争などの諸課題と自分たちの生活との関わりを見だし、持続可能な社会の実現に関心を高めている。 ② 持続可能な社会の実現のために自分にできることを考えようとしている。	① 地球環境・資源・エネルギー、貧困、紛争などの諸課題が社会に与える影響を考え、ワークシートにまとめることができる。 ② 地球環境・資源・エネルギー、貧困、紛争などの諸課題地域の抱える課題への改善策を既習事項を活かしてワークシートにまとめたり、説明することができる	① 地球環境・資源・エネルギー、貧困、紛争などの資料を読み取り、特徴や課題を読み取り、ワークシートにまとめることができる。	① 地球環境・資源・エネルギー、貧困、紛争などの諸課題について理解しその知識を身に付けている。 ② 諸課題に対する国際的な取組や日本の果たしている役割について理解している。

育成しようとする資質・能力の本単元とのかかわり

	〈見通しをもつ力〉
	〈自ら考え判断する力〉 ① 自ら課題を見だし、既習内容や収集した情報を基にして、解決方法を考えている。
	〈高い志〉 ② よりよい社会の形成や地域発展に貢献したいという意識をもっている。
	〈協調性・適応性・コミュニケーション能力〉 ③ 自分の意見を他者に説明し、他者の考えを受け入れ、よりよい意見に修正・強化しようとする。
	〈粘り強さ〉 〈情報収集能力・読解力〉 ④ 情報を収集し、比較・分析する。

指導と評価の計画

(全 7 時間)

次	学習内容 (時数)	評 価					資質・能力の評価 (評価方法)
		関	考	技	知	評価規準 (評価方法)	
1	課題の設定 ○ 現在、世界が抱えている課題と私たちの生活や地域にどのような影響がでるかを予想する。 (1 時間)	◎				ア① (観察・ワークシート) イ② (ワークシート)	自ら考え判断する力① (観察・ワークシート) 高い志② (観察・ワークシート)
2	情報の収集 整理・分析 ○ 世界や日本の抱えている地球環境問題やエネルギー問題について理解し、その課題を考える。 ・ 地球環境・エネルギー問題が私たちの生活にどのような影響が出るか考えてまとめる。 ・ 資料から地球環境・エネルギー問題を読み取る。 ・ 世界の地球環境・日本のエネルギー問題について理解する。 ・ 先進国と発展途上国それぞれの主張を資料から考え、発表する。 (2 時間)	○	◎	○	◎	ア① (ノート) イ① (ワークシート) ウ① (ワークシート) エ①② (ノート, 小テスト)	情報収集力・読解力④ (ワークシート, 小テスト)
3	まとめ・創造・表現 ○ 地球温暖化・エネルギー問題に対し、持続可能な社会の実現のために、自分が生活の中でできることを考え、どのような効果があるか説明する。 (1 時間)【本時】	○	◎			ア② (ワークシート・観察) イ② (ワークシート・観察)	自ら考え判断する力① (ワークシート) コミュニケーション能力③ (観察)

4	情報の収集 整理・分析 ○ 世界の貧困・紛争問題を理解し、私たちの生活に与える影響を考えられる。 ・ 貧困がどのようなものか、さまざまな資料をもとに調べ、他者に説明する。 ・ 現在、どのような紛争があるかを知り、日本の果たせる役割をワークシートにまとめる。 (2時間)	◎	○	○	イ② (ワークシート) ウ① (ワークシート) エ② (ワークシート)	自ら考え判断する力① (ワークシート) コミュニケーション能力③ (観察) 情報収集力・読解力④ (ワークシート, 小テスト)
5	まとめ・創造・表現 ○ 持続可能な社会に向けて, SDGsのどの目標に取り組んでみたいかを選び, ワークシートを作成して, 他者に説明する。 実行 振り返り ○ 対話を通してワークシートを修正し, これまでの学習を振り返って, 持続可能な社会の実現のために必要なことをまとめる。 (1時間)	◎			ア② (観察, ワークシート)	高い志② (観察, ワークシート) コミュニケーション能力③ (観察)

本時の学習（4／7 時間）

（１）本時の目標

地球温暖化，エネルギー問題に対して自分にできることを考え，どのような効果があるか説明し，行動宣言を作成できる。

（２）本時の学習展開

学習事項	指導上の留意事項（◇） 「努力を要する」状況と判断して生徒への手立て（◆）	評価規準 （評価方法）	資質・能力の評価 （評価方法）
1 本時の問題を把握する。（5分）			
○ これまでの学習内容を振り返る。 ○ 本時のめあてを確認する。	◇ 地球温暖化やエネルギー問題に取り組む必要性についてGカードで確認する。 あるー青 ないー黄色		
2 身近なものが地球温暖化やエネルギー問題にどう影響しているか見出す。（15分）			
○ 夜のコンビニエンスストアの写真を掲示し，利用状況を確認する。コンビニの利点について尋ねる。 ○ 作ってきた弁当とコンビニ弁当の違いが地球温暖化やエネルギー利用に与える影響を班で考え，発表する。	◇ 1 週間以内に利用したことがあれば，Gカードを黄色にして示させる。 ◇ 2 学期にコンビニ弁当の商品開発をしたときにどのような食材を利用したか思い出させ，温暖化やエネルギー問題にどう関係があるか考えさせる。 ◆ 食べ終わって出るごみの量や，コンビニエンスストアが 24 時間営業であることをヒントとしてだし，エネルギー消費に与える影響を考えてみるよう伝える。	イ② （ワークシート発表）	自ら考え，判断する力① （ワークシート）
〔予想する生徒の反応〕 作った弁当：国産の食材を利用しているので，食材輸入にかかるエネルギーが少ない。ゴミの量が少ない。 コンビニ弁当：ゴミの量が多い。24 時間営業なので，電気（エネルギー）の使用量が多い。輸入食材を使用すると食材の輸入にエネルギーが多くかかっている。輸送の際に船や飛行機の利用距離が長く，より多くの二酸化炭素が発生する。			
○ もし，発展途上国でコンビニエンスストアや自動車の利用が増えたら，どうなっていくか，予想して発表する。そのうえで，発展途上国はコンビニエンスストアを建設すべきではないのか，それとも日本などの先進国が利用を制限すべきか，どうすれば相互にとってよりよい状況になるか考える。	◇ エネルギー利用が増加し，ますます温暖化が進む。導入部分で「温暖化やエネルギー問題に取り組むべきか」と答えたことや，「コンビニエンスストアの利用状況」で示したカードの色から自分の生活での利用状況を思い出させる。		

3 地球温暖化やエネルギー問題に対して、自分ができそうな行動とその効果を考え、他者に伝える。(25分)			
○ 地球温暖化やエネルギー問題に対して、自分が生活の中でできそうな行動とその効果を個人でワークシートにまとめる。 ○ 班員同士で自分の行動について説明しあう。	◆ 昨年度の作成例を見せる。 ◇ コンビニエンスストアの利用に限定しなくてもよいと伝える。 ◇ 「・・・を行うことで、・・・となり、よって石油の利用が減り、二酸化炭素の発生を抑えられ、地球温暖化の防止につながる」など記述の流れを示す。 ◇ 聞き手は、発表者がきちんと効果を含めて説明しているかどうか、修正があれば発表者に伝え、発表者はそれをメモするよう指導する。	ア② (観察) イ② (観察・ワークシート)	自ら考え、判断する力① (ワークシート) コミュニケーション能力③ (観察)
【概ね満足できる】状況（B）と判断する根拠 自分ができそうな行動とその効果が適切に記入、説明できている。 (記述の例) マイバックを持参し、レジ袋をもらわないようにする。そうすることで、レジ袋を燃やすときに発生する二酸化炭素の量を減らすことができ、地球温暖化の防止につながる。			
【十分満足できる】状況（A）と判断する根拠 自分ができそうな行動とその効果を温暖化、エネルギー問題両方に関連づけて記入、説明できている。 (記述の例) マイバックを持参し、レジ袋をもらわないようにする。そうすることで、レジ袋の原料である原油の使用を減らせるので、エネルギーの節約につながる上、レジ袋を燃やすときに発生する二酸化炭素の量を減らすことができ、地球温暖化の防止につながるからである。			
【配慮を要する】状況（C）と判断される生徒への手立て コンビニエンスストアの利用の際に、自分ができそうなことを考えさせる。ゴミが減ると、どのような効果が出ると思うかを確認し、記述させる。			
○ 自分の記入を見直し、ふせんに行動宣言を清書して模造紙に貼りつける。			
4 まとめをする。(5分)			
○ 本時の学習のまとめをし、次時の学習の内容を予告する。	◇ 自己評価表に記入する。		

(3) 板書計画

本時のめあて

地球温暖化やエネルギー問題に対して、自分にできることとその効果を考えて説明し、行動宣言を作成できる。

家でつくった弁当とコンビニ弁当の違い

【持続可能な社会の実現～私たちにできること】

国産の食材

作るのに時間がかかる。

ごみが少ない。
容器を洗う必要がある。

外国産の食材

24 時間営業ですぐに買える。(便利)
ごみが多い(容器・レジ袋) 洗い物はでない。

↓

資源やエネルギー(輸送・電気)の使用量は多くなる。

・
・
・

全ての国がコンビニや車など便利なものを利用
→資源・エネルギー利用が増加→環境への影響が大きい